

ちば里山新聞

(第32号)

編集発行 NPO 法人ちば里山センター
 袖ヶ浦市長浦拓 2 号 580-148
 電話 0438-62-8895

題 字 倉島 貴浩
 (ワークホーム里山の仲間たち)

ちば里山新聞は千葉県からの委託事業を受け、特定非営利活動法人ちば里山センターが編集発行しています

「東日本大震災」は、これまでに経験の無い甚大な被害をもたらしました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。ともに復興に向けて努力していきましょう。

首都圏のオアシス『中房総』で 第9回里山シンポジウム in 市原 開催



市原の《緑の守り人》が魅せた底力！！

『里山の魅・力発見（中房総の原風景を支える底チカラ）』をテーマに掲げ、第9回里山シンポジウム in 市原が市原市にある東海大学付属望洋高等学校で5月27日に行われました。この「里山シンポジウム in 市原」全体会（参加者 310 名）開催にさきがけ、市原の里山、文化を伝えるべく《中房総の小さな旅》が小湊鐵道株式会社後援のもとに6プランが実施されました。当日は、その報告に始まり、基調講演で北川フラム氏（アートディレクター）による【里山の輝き・里山の持つ魅力を再確認し、新たな可能性を探る】では「あるものを活かして、新しい価値を生もう」と今後の里山の未来を提案。またパネルディスカッションでは高橋和靖氏（おとずれ山の会）のコーディネーターのもと、遠山あき氏（農民文学者）、林秀一氏（上古敷谷里山の会代表）、佐久間隆義市原市長が市原をおおいに語られました。そのなかで佐久間市長は「市原を首都圏のオアシス」と表現されておりました。

金親博榮氏（里山シンポジウム実行委員会代表、NPO法人ちば里山センター理事長）は主催者を代表して「里山とそこに暮らす人々の持つ力・魅力に気づき、

里山再生は、地域作りに懸かっていることを銘記して未来につながる里山活動を千葉から日本に広げていきたい」と挨拶しました。そして、更なる活動にむかおう！との呼びかけにたいして、「できる人が、でき時に、できる丈の事をしよう！」をモットーに、このシンポジウムに参加した約 310 名には、新たな、そして更なる里山の輪がひろがっていました。

←（エクスカーション・「小さな旅」の報告はそれぞれリジカティにとんでいました。



東海大学付属望洋高校の吹奏楽部による演奏は、更に会場を盛り上げる



さとやまクローズアップ



“学校分収林の新たな生きる道”



自然に触れ、生き生きとする生徒たち。

学校分収林をご存知ですか？ 今、その存在が見直されています。ここ鹿野山の鹿野山鬼泪学校分収林では戦後、学校建設のために使う杉を植林していましたが、1970年の市町村合併を期に森林は放置されます。そんななか、「木で育ったので、木に恩返しをしたい」との思いから、鈴木宗男氏（NPO法人ちば森林資源コンサーブ・理事長）が森林整備を地元有志と共に開始。旧登山道を使い、伐採、木材運搬し、いまでは3キロほどの遊歩道が完成。伐採した木材を使った木道・自生している植物にネームプレートを付けるなど、歩く人を楽しませ、安全に配慮しています。

分収林 「土地を借りて造林または育林し、利益を所有者（地主）と分けあうこと（分収）で造成された森林のこと。分収契約には、土地の所有者・造林者または育林者の二者契約と、土地所有者・造林者または育林者・費用負担者の三者契約がある。」

地域を知ることで“ふるさと”が生まれる

この森林は、市内にある清和中学校の地域学習の場所にもなっています。「地域の良さは、地域に実際に繰り出すことで感じてもらいたい」と高橋純子校長先生。生徒は遊歩道沿いのゴミ拾いをし、授業で作った巣箱を山頂に設置するなど、里山ならではの体験学習に汗を流していました。本来の学校分収林としての機能はしてませんが、学校行事に使われることで、「学校」というキーワードはいまでも継続しています。この学校分収林は、こうして新たな生きる道を見つけ、交流、勉強の場となっています。



伐採された杉を木道に使い、景観を損なう事のないようにしている。



当時は製材所も山中に建てられ、木材運搬に使われたたとされる道（写真上）現在は遊歩道になっている。

問い合わせ先

NPO 法人ちば森林コンサーブ

〒292-1155 千葉県君津市鹿野山 88 番地

電話 0439-37-2231 FAX 0439-37-2165

<http://www.conserve.jp/>

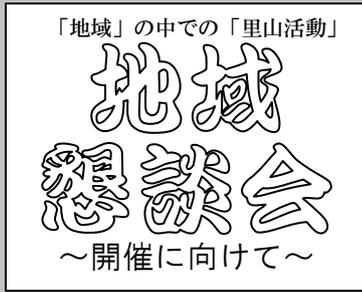
里山活動仲間紹介

「きさらづ里山の会」を紹介します。

「きさらづ里山の会」は里山の保全・整備・活動に係るボランティア活動を行う団体ですが、さらに特徴ある団体を目指し活動しています。また、『森の駅』推進協議会の、木更津「森の駅」を活動拠点として「森の駅発」の理念を大切にして、国産材・間伐材の利用を促進するとともに、日本の森を元気にしていく活動を目指しています。木更津工業高等専門学校で開催された「国際ワークショップ『環境と福祉のための理工学』2010」に参加するなど地域での連携にも取り組んでいます。

<http://www.kisaradusatoyamanokai.com/index.html>

理事長 石井 光明



今年度、ちば里山センターでは「地域懇談会」の開催に取り組みます。「地域懇談会」は、各地域レベルで、これまでの里山活動の成果を見つめ、今後の活動につなげる場として、地域の里山団体、県・市町村、地域の方々、企業等とのネットワークづくりを目指して行うものです。そのプレイベントとして、6/17の当センターの通常総会后、県内各地の里山団体による交流会が行われました。金親理事長及び県森林課から趣旨説明が行われ、まず福島成樹氏（千葉県森林研究所）が、県内136の里山団体から集計した活動状況や課題についてのアンケート結果を発表。千葉の里山関係活動が見事に浮き上がり課題も明確になった。また石谷栄次氏（九十九里海岸の松林を守る会）は各種助成金の豊富な活用経験から、黒沢誠悦氏（北総里山倶楽部）は三菱UFJ環境財団「水源の森」助成金を受けた経験から、助成金獲得と活用の具体的なコツが披露されました。会は新井理事のコーディネートのもと進められ、参加者からも助成金を受けて報告書の取りまとめに苦労した経験談が出たり、大いに盛り上がりました。ちば里山センターは今後もこうした取り組みにより、問題を共有化し、<より良い里山・未来>に向け、皆様と歩んでいきたいと考えます。

千葉県環境研究センター市民活動展
ちばの里山を守る
森人たち
 共催：NPO法人ちば里山センター

当日は千葉県環境研究センター主催、特定非営利活動法人ちば里山センター共催による市民活動展「ちばの里山を守る森人たち」のパネル展示が行われた。カラー大判のパネルが所狭しと置かれ、会場には里山保全の息吹があふれた。



特定非営利活動法人ちば里山センター通常総会開催



平成 24 年 6 月 17 日、緑化推進拠点施設（袖ヶ浦市長浦）にて千葉県農林水産部森林課長野村浩氏(写真左)、公益社団法人千葉県緑化推進委員会常務理事・事務局長伊藤道男氏(同右)より祝辞を頂き開会された。議長として横山武氏（安馬谷里山研究会）を選出、報告提案に基づき活発な質疑討論を経て全提案が了承されました。



里山とわたし

杉山 茂嘉

(森の時計・自然工夫塾)

「私にとっての里山は、自由な発想で楽しむ所」

都会での生活、海外勤務をしているうちに自然いっぱいの中で暮らしてみたいと常に考えていました。そんななか、病に倒れたのを契機に 11 年前に約 1500 坪の山林を購入。念願叶い、住居も鋸南町に移住。平成 17 年度から“自由な発想”をコンセプトに、仲間と生き甲斐を見つける場になっています。それが「森の時計・自由工夫塾」です。

“役立つ里山活用地になりたい”と竹林、雑木、水仙畑等と池、水路を第 1 森の時計～第 6 森の時計に区分し、変化に富んだ里山の自然環境を大切にしています。手を抜くと直ぐに荒山になってしまうので、大切さを訴えるだけではなく実際に来訪者に足を運んでもらえるような活動も並行して行っています。こうしたことで過疎化防止の一助になればとも考え、池にボートを浮かべたり、喫茶店を開いたりと来訪者が気軽に楽しめる里山を目指しています。

森の時計・自然工夫塾 <http://www2.ocn.ne.jp/~morito/>



『緑の守り人』イベント情報

2012年は、10年に一度、開かれる“地球サミット”イヤー。世界中で「地球の未来」を考えます。日本でも森のスペシャリストたちによるイベントが目白押しです。自分に合ったイベントを探し、是非、参加してみてください。

<p>● ぐるっと一周平塚の里 (第1回)</p> <p>白井市にある平塚地区には、日本の原風景がそっくり残されています。その里地里山を歩いてみませんか?初夏にしが味わえない体験ができるはず。農水省の「農村環境の活用推進事業」の一環で地元農家さん協力のもと「白井市平塚田園自然再生活用協議会」を結成し、行われます。</p> <p>日時 平成24年7月21日(土) 10時15分~15時(雨天中止)</p> <p>集合場所 平塚の里ベースキャンプ(旧平塚分校そば)</p> <p>講師 天下井 恵(前白井市文化財審議会議長)</p> <p>参加費 100円</p> <p>問い合わせ 白井市平塚田園自然再生活用協議会 NPO法人しろい環境塾内</p> <p>TEL&FAX 047-404-3298</p> <p>E-mail shiroikankyojuku@kce.biglobe.ne.jp</p> <p>詳しくは URL://kankyojyuku.sunnyday.jp/</p>	<p>● 自然発見ゲーム@大房岬自然公園</p> <p>様々な自然の色や匂い、音を五感で感じられる大房岬公園。四季折々の顔を見せる自然の中から、今回は夏の顔を発見してください。</p> <p>日時 平成24年7月21日(土) 14:30~15:30</p> <p>場所 大房岬自然公園</p> <p>参加費 500円</p> <p>問い合わせ NPO法人千葉自然学校</p> <p>TEL 0470-33-4551</p> <p>FAX 0470-33-4663</p> <p>HP: http://www.chiba-ns.net/park/</p> <p>E-mail park_taibusa@chiba-ns.net</p>
<p>● 刈り払い機・チェーンソー 里山安全技術講習会</p> <p>「安全」があつてこそその里山活動。緑がすくすく育つシーズンになり、刈り払い機やチェーンソーを手にする機会が増えます。そこで初心を忘れぬよう、基本の再確認をしましょう。初心者大歓迎</p> <p>日時 平成24年7月27日(金) 9:30~15:00 (小雨決行)</p> <p>場所 JACの森</p> <p>講師 木村江敏(千葉県森林組合)</p> <p>参加費 500円</p> <p>問い合わせ (おとすれ山の会) 高橋靖</p> <p>TEL&FAX 0436-36-3773 E-mail: kjtaka@kba.biglobe.ne.jp</p>	<p>● 「森の手入れ」ボランティア募集</p> <p>年間を通した森でのボランティアを募集します。経験よりも森への関心がある人の参加をお待ちしております。まずは「森」を感じてください。</p> <p>日時 平成24年7月~25年3月(毎月第1、3日曜日) 8:45集合 15:00~16:00には終了</p> <p>集合場所 君津市鹿野山163番地</p> <p>参加費 300円</p> <p>問い合わせ NPO法人・ちば森林資源コンサーブ</p> <p>TEL 0439-37-2231</p> <p>FAX 0439-37-2165</p>
<p>● 夏のキノコと植物の観察会</p> <p>キノコの知識を得る絶好のチャンス。夏に自生するキノコを実際に見ることができ、専門家の話が聞けます。キノコと共生する植物もチェックです。</p> <p>日時 平成24年8月5日(日) 9:30~15:30</p> <p>場所 君津市豊英島(集合場所 清和県民の森「木のふるさと館」駐車場)</p> <p>講師 吹春俊光(千葉県立房総のむら・風土記の丘資料館)</p> <p>参加費 200円</p> <p>問い合わせ「ちば千年の森をつくる会」 sennennomori@hotmail.co.jp 宛</p> <p>7/25日までに住所、氏名、年齢、電話番号、メールアドレスを明記して申し込み下さい。メールのない方は、043-271-0282(伊藤事務局長宛お電話下さい)。定員40名</p>	

※詳細については、ちば里山センターホームページをご覧ください。

※参加お申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

TEL0438-62-8895/FAX0438-62-8896

<http://www.chiba-satoyama.net/>

e-mail: info@chiba-satoyama.net

